新ごみ処理施設処理方式検討委員会で、新ごみ処理施設における処理方式を審議した結果、「ごみ焼却施設（ストーカ式）」が最も高い評価を得る結果となりました。

本組合では、組合圏域に焼却施設が１施設であるという特性をもつことから、本組合の課題である副生成物の処理処分を含めて、安全かつ安定したごみ処理事業を継続していくことが使命となります。

これらの事情より、今回の評価における重要項目は、「副生成物の処理処分が安定的に可能な方式」と「安全性・信頼性に優れた方式」であり、安定的に副生成物の資源化が可能であり、国内の納入実績が最も多く、技術的に成熟し、運転管理・維持管理性の点で優れている「ごみ焼却施設（ストーカ式）」が優位という結果が得られました。

また、本組合で重要としている「熱エネルギーの効率的な回収が可能であり、二酸化炭素の排出抑制に優れた方式」及び「ライフサイクルコストが優れている方式」を含めるその他の項目についても、他の処理方式と比較し、高い評価または同等である結果が得られたことから、新ごみ処理施設処理方式検討委員会では、最高点の**「ごみ焼却施設（ストーカ式）」**を選定しました。

	配点	ストーカ式	流動床式	シャフト式	ガス化流動床式	ストーカ式＋灰溶融	流動床式＋灰溶融	メタン＋焼却
①熱エネルギーの効率的な回収が可能であり、二酸化炭素の排出抑制に優れた方式	15	15.0	11.3	6.3	6.3	8.8	7.5	11.3
②最終処分量の低減が図れる方式	5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
③ライフサイクルコストが優れている方式	15	15.0	15.0	11.3	15.0	11.3	11.3	15.0
④技術的、価格的競争が見込まれる方式	5	5.0	0	1.3	0	0	0	0
⑤ごみ質の変動に広く対応が可能な方式	5	3.2	2.6	3.8	2.6	2.6	1.9	2.6
⑥災害時における処理の継続及び災害廃棄物の受入に広く対応が可能な方式	10	6.3	5.0	7.5	5.0	6.3	5.0	5.0
⑦周辺環境への影響が少ない方式	10	7.6	7.6	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8
⑧安全性・信頼性に優れた方式	15	13.8	7.6	6.3	5.1	3.8	3.8	3.8
⑨副生成物の処理処分が安定的に可能な方式	20	15.0	15.0	5.0	5.0	5.0	5.0	15.0
合計	100	85.9	69.1	53.3	50.8	49.6	46.3	66.9